

## 保育者養成教育における模擬保育用動画教材の形成的評価

### Formative Evaluation of Video Training Materials for Simulating Childcare in Nursery Teacher Training Education

中原 大介<sup>\*1</sup>, 坂本 毅啓<sup>\*2</sup>, 佐藤 貴之<sup>\*2</sup>  
 Daisuke NAKAHARA<sup>\*1</sup>, Takeharu SAKAMOTO<sup>\*2</sup>, Takayuki SATO<sup>\*2</sup>  
<sup>\*1</sup>福山平成大学 <sup>\*2</sup>北九州市立大学  
<sup>\*1</sup>Fukuyama Heisei University <sup>\*2</sup>The University of Kitakyushu  
 Email: nakahara@heisei-u.ac.jp

あらまし：これまで筆者らは、福祉専門職養成教育における模擬面接用教材の開発を発端とし、保育者養成教育におけるICT活用を検討してきた。本稿では、保育者養成教育におけるICT活用の実践事例として、模擬保育を題材とした動画教材のプロトタイプの開発とその形成的評価について述べる。

キーワード：保育者養成、模擬保育、動画教材、形成的評価

#### 1. はじめに

これまで筆者らは福祉専門職養成教育におけるICT活用の研究をさらに発展させ、保育者養成教育においてその質の向上を目指し、実践力を身に付けるために多くの養成校で取り組まれている「模擬保育」におけるICT技術の活用を検討してきた。

本研究では、保育士養成教育で行われている模擬保育において、学習効果が高い動画教材の開発が最終目標である。本稿では、現在開発中である模擬保育教材の形成的評価について述べる。

#### 2. 模擬保育とは

保育者養成教育において、保育者の実践力の向上を目指し、指導計画立案と教材選択・教材作成・指導計画に基づいた保育の実践をロールプレイ形式で行うことが多い。この活動を総称して模擬保育と呼ぶ。事前に指導案を立案した後、学生が先生役・子ども役に分かれ保育実践し、省察を行う。養成課程において、実践力の向上を目的として模擬保育を採用する大学は多い。本学で実施している教職実践演習内の模擬保育の取り組みについて図1に示す。

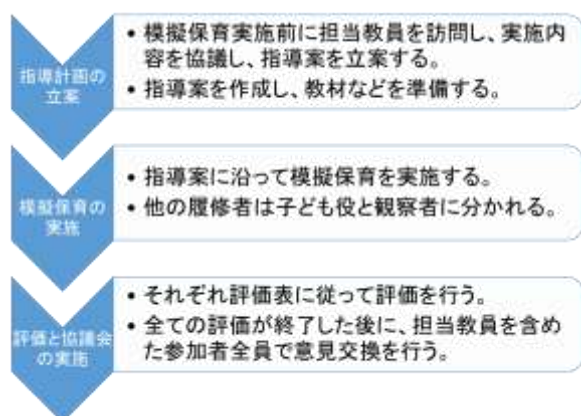


図1 模擬保育の取り組み

#### 3. 模擬保育用動画教材の準備

筆者らが想定した模擬保育へのICT活用の利点<sup>(1)</sup>のうち、①模擬保育場面を自身の理解に応じて何度でも再生できる、②模擬保育場面と指導案を見比べながら「ねらい」を考えることができる、③同じ模擬保育場面で違った視点から活動を見ることができるとの3点に絞り、ICT活用により学習効果があるか否かを大学生に形成的評価してもらうこととする。

最初に教材の元となる模擬保育の様子の撮影を行った。違った視点からの模擬保育の評価を可能とするため、模擬保育の撮影では先生役の様子、子ども役の様子、先生役の目線カメラの3つのカメラを用い、図2の配置で撮影を行った。

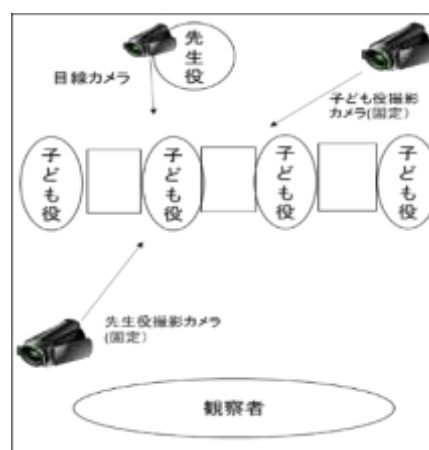


図2 カメラの配置

本教材はLMS（Learning Management System）のひとつMoodle上で模擬保育の動画を閲覧できるように開発した。さらに、模擬保育の映像を見ながら予め設定した評価項目により評価可能にした。開発した動画教材のスクリーンショットを図3に示す。



図3 PC上での本教材画面

#### 4. 模擬保育の実施と評価

開発中である本教材の形成的評価を行うため、19名の学生（1年生4名、3年生5名、4年生10名）を対象として、模擬保育用動画教材を利用した模擬保育の評価を実施した。

形成的評価は、まず本研究の趣旨・手順の説明を行った後、先生役を撮影した動画・子ども役を撮影した動画・目線カメラによる動画の3つを視聴し、それぞれに対して模擬保育を評価し、最後にアンケートと簡単な聞き取り調査という手順で実施した。

学生が教材を利用するにあたり、模擬保育撮影時に使用した「ねらい」が記入されている指導案を印刷したものを配布している。一つの動画につき、閲覧に15分程度かかるため、全ての手順を終了するまで概ね45～60分を要した。

動画教材を利用した後に実施したアンケートのうち、先に述べた①、②、③に関する項目についての結果は表1の通りである。

表1 アンケート結果

○何度も再生できる	○「ねらい」を考えられる	○違った視点から活動が見られる
非常にそう思う...8名	非常にそう思う...7名	非常にそう思う...10名
ややそう思う...8名	ややそう思う...11名	ややそう思う...8名
どちらともいえない...3名	どちらともいえない...1名	どちらともいえない...1名
ややそう思わない...0名	ややそう思わない...0名	ややそう思わない...0名
非常にそう思わない...0名	非常にそう思わない...0名	非常にそう思わない...0名

このように、①、②、③全てに関して肯定的な回答が得られたことから、本教材によりある一定の学習効果が期待できそうである。

さらに、アンケートの自由回答では、①、②、③の項目に関する内容として以下が得られた。

①については、「何度でも見直すことができ、自分たちの課題を見つけられそう。」という意見などがあつた。一方、1回15分の模擬保育を3場面見ること、「小さい画面を30分以上見続けるのは辛い。」というネガティブな反応もあつたことから、長時間の動画は何度も視聴するのが難しいことを推測できる。

②については、「ねらいの達成ができていないか、できていない場合は何故かを再度確認できる。」という先生役で模擬保育を行った学生が自らのことを振り返る際のメリットになっている記述が見られた。また、「指導案と見比べながら見られる所がよい。」とする意見もあつた。その一方で、教材利用時の学生の様子を見ると、模擬保育の動画に集中をするため、ほとんど指導案に視線を落とさず、映像を見終わった後に改めて指導案に目を通すような様子も見られた。また、「指導案と動画をリンクさせて流れに沿って見れたら、おもしろいかなと思いました。」という、今後のバージョンアップを検討している内容について、利用者である学生からの意見も得ることができた。

③については、特に目線カメラを導入したことで学生達の関心は高かった。「先生の視線で見るとどのくらい子どもに視線を送っているかが分かって良かった。」や「色々な視点から保育を見ることができて良かった」という意見などが見られた。しかしながら、目線カメラについては「揺れが大きく酔いそうになった」という意見がいくつか見られ、目線カメラで撮影した動画をそのまま教材として取り上げる難しさを含んでいることもわかった。

#### 5. おわりに

本稿では模擬保育用動画教材の形成的評価を行ってきた。これまで筆者らが模擬保育用動画教材の利点として予想してきた、動画の反復視聴による学習の質向上の可能性、指導案との比較による「ねらい」の理解とねらいが達成できない時の振り返りの教材としての有用性、多様な視点から模擬保育を見ることができるといった本研究のねらいは一定達せられたものと考えられる。また、「4年生はすごい」という言葉に代表されるように、動画を視聴することで模擬保育の様子を具体的にイメージできるため、保育者養成教育における早期体験学習への活用の可能性も出てきた。

しかしながら、スマートフォン利用時の通信容量超過による動画視聴不能や学習者自身の意欲低下や端末の発熱によるなど、連続して模擬保育場面の動画を視聴することの困難性、事前作成した指導案と模擬保育の動画の関連づけなどの今後の課題も見えてきている。これらの課題を踏まえ、よりよい教材の開発を進めていきたいと考えている。

#### 謝辞

本研究はJSPS 科研費 26330403 の助成を受けたものである。

#### 参考文献

- (1) 中原大介, 佐藤貴之, 坂本毅啓: “保育者養成教育における模擬保育への ICT 活用の検討” 第40回教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp.353-354(2015)